

あおい通信 第73号

東京江戸散歩

その参十巻 本郷周辺 ②

右：東大正門



中段：龍岡門
下段：池之端門



左：弥生門

写真・文 七海邦夫

十一代将軍家斉の息女
溶姫が百万石の前田斉泰
に十四才で嫁入りした。
将軍の姫君が従三位以
上の大名に嫁入りした時、
御守殿と呼び、御守殿は
正門を通らず別の御守殿
門を通るので、この時作
られたのが朱の漆塗の別
名赤門、正式名称は御守
殿門。正門よりは小型で
番所は独立し、文政十一
年(1828)の完成で、
現在、東京大学のシンボ
ルとなっている(国指定
建造物)。

御守殿門の再建は許さ
れないところから、万
一の火災に備えて赤門寄
りの町屋は取り壊され、
その数は数百戸に及ぶ。又、
溶姫には大名火消「加賀
鷲」をはじめ、武士十八
医師二人、おつき女中七
十四人が付いてきた。
門は医薬門形式で屋根

は切妻、唐破風の番所が
両側に付いている。番所
付は国持大名十万石以上
の格式である。

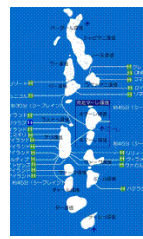
東大には六つの門があ
り、有名な「赤門」と「正
門」はいずれも本郷通り
に面している。穴場は暗
闇坂の途中の「弥生門」、
門扉に彫られた紋様が実
に美しい。弥生門の前に
立つて後ろを見ると、坂
下方向の対面に弥生美術
館の尖塔(本郷菊富士ホ
テルを模した)が見える。
暗闇坂を更に進むと「池
之端門」がある。三丁目
交差点を湯島上野の方向
に三百mほど歩き、本富
士警察署の角を左へ曲が
って百mほど進むと「龍
岡門」があり、「鉄門」
とも呼ぶ。東大病院への
進入路である。常に開い
ていて、大して見映えが
しないので見逃されがち。

もう一つ、弥生町にあ
る農学部「農正門」は旧
制一高の門であった。正
門を入って左手、工
学部の前庭の低い生垣に
囲まれてコンドルの銅像
が悠然とこちらを見たい
る。イギリスの建築家コン
ドルが、日本政府の招きで
工部大学校(現東大建築学
科講師として来日したの
は明治十年(1877)の
事である。この青年によつ
て初めて本格的な洋風建
築の教育がなされ、多くの
指導的建築家が育った。彼
の設計は内部の充実を重
んずる建築を得意とし、湯
島の旧岩崎邸、お茶の水旧
ニコライ堂をはじめ数々の
名作を残した。銅像の作
者は新海竹太郎で大正十
二年(1922)四月除幕
式が行われた。

世評・時評

今年も半分過ぎ
るが、この間を振
り返ると何と云
つても3・11で
ある。未曾有の、
百年に一度いや
千年一度とかの、
「想定外」の大災害で、M
9.0の大地震とそれに伴
う津波であった。
高さ十四mにものぼる
巨大津波に東日本は多く
が被災し、幾つもの市町
村が壊滅。同時に福島で
は原発も被災し、放射性
物質が付近半径三十km範
囲まで汚染の可能性あり
とかで避難指示が政府か
ら発令された。

既に三ヶ月以上経過
しようとしているが、五月
十五日現在、死者・行方
不明が2万5千人に達す
るは必至。避難民は重複
災害により十二万人近く
に達し、現在も不自由で
厳しい避難所生活を強い
られている。これからも、
被害の増加傾向は否定で
きない状況である。
一方、被災直後から国
内はもとより、世界各国
から多くの素早く心温ま
る支援が続々と報じられ
た。そのうちの二つが、
インド大陸からこぼれ落
ちたような島々(「イン
ド洋の真珠」とも呼ばれ



「島々の花輪」
モルディブ

る)のモルディブである。
(国名は「島々の花輪」の
意味)
この国は二〇〇四年の
スマトラ島沖地震で津波
の被害を受けた。その際
に日本から支援されたお
返しだろう、今回の被災
地にモルディブはツナ缶
六七十万個を贈ってく
れた。インド洋はマグロ
の好漁場として知られ、
ツナ缶工場は日本の資金
援助で建設された。救援

文化大学と呼ばれてい
た頃の東京大学文学部の
哲学の外人教師は、明治十
年(1877)から、サイ
ル、フェノロサ、クーパー、
ノックス、ブッセと続くが、
最も長く教壇に立ち、日
本の哲学界に最も大きな
影響を与え、そして最も深
く尊敬されていたのが、ラ
ンケ。



コンドルの銅像

ランケは、原発事故
の収束とコバルトブルー
の海の「花輪」を守りた
い願いがギッシリ詰まっ
ている。被災地には「がん
ばろう日本」を合言葉に、
東北魂で災害後を生き抜
く力を養って欲しい。
(ヨッチャン)

ファエル・フォン・ケ
ーベルであった。彼は、東
京大学で哲学概論、美学
などを教えたが、哲学専
攻だけでなく、他の専門
分野の学生たちにも大き
な感化を与えたから、普
通には「ケーベル先生」
とか「ケーベル博士」と
か呼ばれていた。



ケーベル先生

因みに漱石は美学の最
初の講義を聞いている。
ここで「先生」の直接の
弟子達を紹介すると、哲
学では岩元禎、桑木巖翼、
伊藤吉之助、西田幾太郎、
石原謙、和辻哲郎、波多
野精一、安倍能正、九鬼
周造、田辺元など。音楽
では橋糸重、滝廉太郎な
ど。ギリシャ古典では久
保勉、田中秀央など。美
学では深田康算、上野直
明、阿部次郎、小宮豊隆
などで、その他には夏目
漱石、岩波茂雄、高山樗
牛、登張竹風など、現代
の日本の文化を作り、そ
れぞれの分野で日本を代
表する人達であり、その
意味でもケーベル先生は
現代の日本の文化の源で
あったとも言える。
(続く)

◆編集委員会より

「あおい通信」は、
皆様からの原稿を募集
しています。担当飯島
迄お申し出ください。

東日本大震災に 思うこと

嶋田 康子

三月十一日から三ヶ月近くなりましたが、いまだに辛い残酷なことが起きています。私は何も出来なくてわずかな募金を入れるのだけです。はがゆい思いをしています。仮設住宅も旧盆までかかるのか。又突然の東海地帯の原子力発電所の停止。国会中継の首相にも野党の質問にも腹を立てています。日本が大きく変化した第二次世界大戦も、広島、長崎の原子爆弾で止めを刺されました。

原発事故を憂う

上野 晴也

企業家や一部の政治家たちの所為で、福島第一原発の事故によりこの地球上にあつてはならない放射能が東日本の人々を脅かしている。文明・文化を先取りしてきたツケがとうとう来てしまった。直ちに原発を止めて自然エネルギーに代える英知が人類を幸せにする。また科学の力で百五十年先を読み、汚染された土壌や物質をクリーンにし、子孫に渡したい。それ

と感じます。旅先の風の強い竜飛岬で、風で回っている大きな扇風機を見ました。セールの電話で家庭の太陽発電の話も聞きます。地熱発電の話も新聞で読みます。だけど、それだけでは無理みたい。原子力発電を超えることができないのでしょうか。今の生活レベルを保とうとする限り、残念ながら日本も世界も原子力発電を利用する方法しかないのかも、私は思います。

生協から配達される品物の多くは西日本産の名前が多く、東日本で生産される野菜や牛乳は敬遠されているようです。私の年ではもう、いまさら何を食べても、何が入っているか、と思うのも自然ではないでしょうか。今は、原子力なしには社

れが出来るのは日本であり、脱原発を声大にして発信する義務を背負うべきである。

このようなことに国境も人種も、宗教などは関係なくグローバルに考えて、プラス思考で、原発をなくすには何代もの人々が必ずやり遂げなければいけない。また地球温暖化をストップさせる為にも日本の最先端の技術で、明るい地球の未来を目指し、頑張れ日本、頼むぞ日本。そして政治家はゴチャゴチャ言わず、党派を超えて国民を守るべきだ。

会は成り立たないと感じます。だげど成長期のお子さんや若いおおかあさんにはより安全な食生活と環境を保てるような原子力の利用を考えなくてはならないと思ひながら、座つたままです。

私の世代では電気は水力発電所が中心でしたが、わずかながら石炭・石油の火力発電もありました。私は、親が水力発電所勤務という生活で育ちました。甲武信岳を源流に長野県は千曲川、新潟県に入ると信濃川と呼び名が変わる川の落差によつ

都心ハチミツ

横山 稔

ハチミツ（蜂蜜）採集といえは、山々に囲まれた自然や草原を想像する人が多い筈。しかし、地方から東京に来て蜂蜜の採集をしている養蜂家がいるほど、都心は蜂蜜の宝庫と言われる。一年を通して花に恵まれているのだ。特に、半蔵門から桜田門にかけての内堀通りのユリの木の並木が貴重。木の花のミツは量が多く、しかも濃厚。ほかにも都心には皇居、新宿御苑、赤坂御用地と花の種類が多く、ハチミツ採集に適している。



て、上から管で下に水を落とし、その落ちる力でタービンがまわり電気が生まれます。回した水は次の山に行き、再び下に管を流れて電気を起します。最初の管は直径五センチ位で一本だけですが、子供が育つように、下流に行くに従つて管は太く本数も多くなり、そんな形で幾つかの発電所が存在し、電気が生まれ、それが自然の風景となっていました。今、大雪で有名な津南にある信濃川発電所が、日本の水力発電所では最も多くの発電量、エネルギーを出して

残っています。三井ビルの地下に、母祖母、兄、姉、弟等と避難しましたが、暫くすると「ここにいたら死んでしまうぞ」と言う声が聞こえ、母達と宮城のお壕の外側に再び避難し、そこで朝を迎えました。空襲が一時止んだ時、家に戻りましたが辺り一面消失し焼け野原、辛うじて此処に我家があったと判る位の無残な有様だった光景を、六十五年経った今でも鮮明に覚えています。

東京大空襲 記憶の中の日本橋

田口 浩美

私は、東京駅と日本橋高島屋の間の呉服橋で生まれ、明日は早めの入学式とワクワク心を躍らせていた夜、東京大空襲を受けました。夜中にサイレンが鳴り、あたりが騒がしくなりました。早く着替えてリュックを持ちなさいと言われ、恐いという感覚もないまま、ただ言われるままに支度をして姉や兄、祖母や母と一緒に外へ出ると、夜中なのに空は青く、遠くの空は赤く染まっています。恐さより、それが私の目には綺麗に見える、未だに忘れる事のない光景として、心に

いまですが、今は無人で操作され、小さなエネルギーとしてしか扱われていないそうです。



信濃川発電所の原風景

今では山の傾斜と、何度と同じ水を利用して、生み出したエネルギーを使って生活できる時代ではありませんが、自分が生まれ育った風景が思い出されます。

あおい俳壇・歌壇

幾万の透きつづ光る 螢鳥賊
かがり火は川面に砕け 初鶴飼 泉 貞子

昼下がりに 紫陽花の花蝶一話
ひい孫の 舞台見に行き 感涙す 相田美代子

菜の花や 秩父路を行く 巡礼歌
好物の 生姜植え居る 夫八十路 橋本 廣子

地震津波 被災の人の 衣替え
山村 匡子

短歌
ふきの葉の こぼれて光る
朝つゆの ゆれ行く風や
ほほをぬらして 吉野 波な

葵友の会 広報コーナー

311の震災により、3月度は全ての行事を中止しましたが、4月からは本会も徐々に活動を再開しました。

4月度行事の結果
十五日（金）「ユサージュ」にて、12名の参加でした。

5月度行事の結果
十八日（水）人数が足りず中止としました。

二〇日（金）「ユサージュ」にて、10名の参加でした。

加藤さんのマンション集会所にて14名の出席で開催しました。
（委任状58/72）

《名》今年度の役員の方々は、
（敬称略）
会長：七海邦夫、副会長：伊藤ユリ子、会計：横山稔、監査：矢野敏郎、委員：山田良子、柳生昭子、小林辰夫、斎藤重美、梶野優子
※ハワイ旅行は、十月一日出発、十月六日帰国で実施します。
（事務局長）

葵は「心と身体のリハビリ」で元気な「笑顔」を作ります